

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577700226		
法人名	医療法人 健仁会		
事業所名	グループホーム風花		
所在地	山口県山陽小野田市桜一丁目3番1号		
自己評価作成日	平成30年6月25日	評価結果市町受理日	平成30年12月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成30年 7月 23日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

風花の門を入ると玄関までのアプローチにプランターで季節の花を皆様で育て、広い畑で育てた季節の野菜は利用者様と収穫をしています。新人職員は水やりの時間や収穫のタイミングなどを利用者様から教わっています。庭の管理は、近隣自治会の皆様・30分ボランティア・運営推進会議出席者やご家族と様々な方が空いた時間に来て下さり草抜きなどをして下さいます。地域の方との関わりも深くなり、利用者様とも馴染みの関係が築けていることで、年3回の家族会(納涼祭・クリスマス会・お茶会等)には、ご家族・地域の方を含め毎回50名以上の参加があり、和やかな時間を楽しめます。またご家族や地域の方との関係が途切れない取り組みを続け、市民運動会・夏祭り・お大師様・お雛様めぐり・どんど焼きなど、四季折々にご案内を頂き、お出かけの機会も多く、利用者様にはとても喜んで頂いております。開設から15年目を迎え、『今月の主役』と題し一人の方にスポットを当て、本人がしたいことの実現を目指した新たな取り組みを始めました。スポーツが好きな方で昔高校の教師をされていた方の「応援したい」という想いから、新幹線で母校が出場する高校野球の応援へ、メガホンを持って球場まで足を運びました。「家まで歩いて帰りたい」という利用者様には散歩マップをつくり、徐々に散歩の距離を伸ばし家まで往復できるようにと歩いています。道端の花や景色を見ながらの散歩は話が弾みとても楽しそうにされています。毎月の風花メールや本人直筆のお便り「写真入りポストカード」は、ご家族も楽しみにして下さっています。風花ではご家族や知人の面会・ご家族との外出も多くあります。年に2〜3回、県外在住のお子様も風花の居室で長期滞在され、一緒に枕を並べて休まれています。希望に沿ってご家族の食事も準備しており、一緒に過ごして頂ける環境にも力を入れ取り組んでいます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣自治会の人や民生委員、婦人会、家族会の人たちが事業所のボランティアとして、畑の野菜や花づくり、草取り、花を生ける、行事の準備や片付け、外出時の付き添い、話し相手等に関わっておられ、利用者は職員やボランティアと一緒に地域行事に参加されています。職員は理念として掲げた「4つの柱」を心がけられ、日々の関わりの中で利用者一人ひとりに目を向けられて、スポーツが好きな元高校校長、釣りによく行っていた利用者、家に歩いて帰りたいなどの利用者の気持ちを把握され、高校野球観戦や釣り堀での釣り、家に帰るための歩行訓練など、喜びの実現に向けて支援されています。外部研修や法人研修に全職員が受講できるように計画されると共に、法人研修や内部研修で緊急時の対応について毎月訓練をされて実践力を身につけるように取り組んでおられます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1〜56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼や会議の時に基本となる姿勢「理念」「ケアの4つの柱」を皆で唱和することで、利用者様との関わり方について意識し業務にあたっている。新人研修、新任・現任職員研修では「心得ノート」を用いて勉強会を行い、理念やケアの4つの柱の意味をしっかりと学ぶ機会がある。法人の接遇研修には誰もが参加でき、理念をもとに勉強をする機会がある。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念とケアの4つの柱を法人の朝礼や月2回のユニット会議で唱和している。職員の名札の裏には、理念と4つの柱を印字し各自が毎日確認している。業務日誌やシフト表、事業所だよりに掲示し、いつでも理念に触れることができるようにしている。新任研修や現任研修、接遇研修で学び、「心得ノート」を活用して理念の理解をチェックをし、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年は30分ボランティアとして、民生委員や近隣自治会サロンの方々が風花の行事に来て下さっている。地域のお祭りや文化祭・運動会の催し等、ご案内頂き出かける機会もあり、利用者様との馴染みの関係が築けている。12月のクリスマスコンサートでは保育園児による発表会や職場体験として中学生も来ている。	自治会に加入し、職員は地域の清掃作業に参加している。近隣自治会や民生委員、婦人会、家族会に事業所の行事予定などを回覧して募集した30分ボランティアが事業所に来訪し、畑の野菜や花づくり、草取り、事業所行事(門松づくり、七夕飾りづくり、風花納涼祭、クリスマス会など)の準備や片付け、参加、利用者の見守りや外出時の付き添い、話し相手をしている。ボランティアは厚狭の夏祭り、文化祭、運動会、どんと焼きなど地域の行事に利用者と一緒に参加している。ほたる祭り参加時に駐車場の確保など地域の協力を得ている。商店街祭りの大名行列が事業所に立ち寄っている。事業所のクリスマスコンサートで保育園児が発表会をしている。中学生の職場体験や専門学校の実習を受け入れるなど、事業所や利用者が地域の人と、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年恒例となった文化ホールでの法人の理学療法士による生活改善リハビリセミナーは、風花ご家族のほかに婦人会・民生委員・老人会・近隣自治会サロンの方々にご案内し、多くの参加があり大変喜ばれている。地域の方に風花行事のご案内をし、参加して頂くことで声掛けのアドバイスや介護のポイントを実際に見て頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	毎年4月に自己評価・外部評価の勉強会を行った後、自己評価に取り組むことで、支援についての見直しの機会としている。質問にはリーダーや管理者が1対1で答えている。自己評価をまとめる際には職員が交代でまとめることにしたことで、一人ひとりの理解につながっている。	毎年ユニット会議で評価についての勉強会を行って自己評価に取り組むことで、業務の見直しの機会としている。自己評価は、全職員に評価のための書類を配布して記入した後、合同ユニット会議で話し合い、管理者とリーダー、職員の代表が検討してまとめている。外部評価結果を受けて、ユニット合同で話し合い目標達成計画を全職員で取り組み、緊急時の対応についての法人の研修(年2回)や応急手当委員会の研修(月1回)、内部研修での初期対応の訓練(月1回)、普通救命講習を受講して実践力を身につけているなど、具体的改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者様情報・風花メール・風花暦・またその折々に懸案事項として議題を上げ報告し、意見交換をしている。水害が心配される地域環境であるため、ご家族や地域の方々から利用者様の避難誘導について意見がでたことから、山陽小野田市防災士協会の防災士2名(内1名は自治会長)が来られ、『防災口座』を開催。ご家族・地域の方々に参加され、非常災害時の備えとして簡易担架作成の手順を実践した。	会議は2カ月に1回開催し、利用者の状況や行事などのサービスの状況、外部評価結果報告、ヒヤリハット・事故報告、防災、緊急連絡網、応急手当訓練などについての検討や施設食試食会などを行って意見交換をしている。防災訓練にはメンバーの他、家族や地域の人の参加を得ており、簡易担架の作成など実践的な訓練をしている。メンバーの意見から「防災講座」を実施したり、ボランティアの紹介を受ける、地域行事など外出の情報を得る等、意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に毎回市職員の出席があり、利用者様状況の報告や日々の取り組みを報告することでアドバイスを受けている。地域の方からの介護保険のことや山陽小野田市の現状について質問があった時には答えて頂いている。地域包括支援センター主催の、認知症支援ネットワーク会議に出席しており意見交換の場となっている。	市担当者とは、運営推進会議時に情報交換をし、指導や助言を受けている他、直接出向いたりFAX、電話等で相談をして、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、認知症支援ネットワーク会議参加時などで情報交換したり、意見交換をして、連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	風花勉強会で年1回、身体拘束について勉強会をしている。スピーチロック、ドラッグロック、フィジカルロックの意味をしっかりと理解し、利用者様への声掛けや対応に注意している。日々のケアの中で利用者様の行動制限につながることはないか職員間で話し合っている。自由に外のベンチでくつろいだり畑の様子を見たりされている。身体的拘束適正化検討委員会を設置し、3ヶ月に一度身体拘束について意見交換の場としている。	事業所独自に身体拘束適正化検討委員会(委員:管理者、リーダー、計画作成担当者、訪問看護師)を設置し、身体拘束をしないケアの指針を作成している他、3ヶ月に1回、身体拘束について意見交換をしている。職員は内部研修で年1回学んで身体拘束について理解し、声かけや対応に配慮している。気になるところがあれば、管理者が指導したり、職員同士で注意し合っている。玄関には施錠せず、職員と一緒に出かけたり、利用者の散歩を見守っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者やリーダーは常に職員の利用者様への関わり方をみて、気になる言葉遣いなどがあつた時にはスピーチロックになっていないか職員を交え話し合い、尊厳を傷つけない言葉づかいに努めている。マニュアルがある。管理者は職員の健康状態の把握に努め悩みを抱え込まないように、話をする機会をつくっている。風花勉強会で虐待とはどのような事なのか具体的に例をあげ説明があり、高齢者虐待防止関連法も含め学んでいる。勉強会に参加できなかった職員は報告書と資料を回覧で見てもう一度理解し実践に繋げている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、お一人成年後見制度を利用されており、成年後見人との連携はとれている。成年後見人・権利擁護のファイルがスタッフルームに置いてあり、いつでも閲覧できるようにしている。1年に1回、風花勉強会で新人・新任職員も詳しく学ぶ機会がある。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者・リーダーがゆっくりと理解・納得されるまでご家族に説明している。その中でご家族からの質問にはしっかりお答えしている。介護保険改定の情報は書面をもって説明し、契約書と一緒に保管のお願いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に重要事項説明書にて要望・相談窓口、第三者委員の設置についてお伝えしている。玄関入り口に要望箱を設置し、要望書もご家族自身が記入できるよう準備している。要望や相談があった時には要望書としてあげ、管理者やリーダーの判断で解決することがあるが、ユニット会議で職員間で意見交換をし、利用者様の支援につなげている。	契約時に、相談や苦情の受付体制、第三者委員、処理手続きを利用者や家族に説明している。玄関に要望箱を設置している。運営推進会議や面会時、年3回の家族会行事(花祭り、納涼祭、クリスマス会)、年1回のアンケートなどで、家族からの意見や要望を聞いている。要望があったときには管理者やリーダーが対応すると共に、全職員に要望書を回覧し、ユニット会議で検討している。要望を受けて他科の受診支援を行っているなど、意見や要望を運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	介護施設での事件報道がある中で、グループホームは一階にあるため、職員から不審者侵入時の不安の声が上がったことから訓練の提案を行った。山陽小野田警察署の協力のもと本番さながらの緊迫した訓練ができた。その訓練から以降、風花独自で防犯訓練を月1回申告ナシで実施していることで、今では全員が手順の把握ができており不安が少し解消されている。職員からの駐車場横に設置している掲示板の改修提案もすぐに聞いてもらい、新しく設置している。	毎日の申し送りや日常業務の中、月2回のユニット会議や月1回のユニット合同会議で職員の意見や要望を聞き、法人の5グループホームの管理者とリーダーで行う月1回のリーダー会議で検討して、運営に反映させている。不審者侵入時の不安に対して、警察署の協力を得て法人で防犯訓練を行い、事業所独自でも月1回訓練を行っているなど、職員の意見を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修は出勤としており、外部研修も受けやすくなっている。実務者研修は法人が場所を提供することで、負担が少なく受講する事ができ資格手当も付くことからスキルアップを目標に、介護福祉士の受験資格取得に意欲的な職員も多くみられる。希望休はなるべく取り入れるようにして、有休休暇でリフレッシュしたり、法人全体で定期的にノー残業デイを設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受けられるように勤務の調整をし、実践者研修を1名、リーダー研修を1名受講した。風花勉強会は年間計画をたて、講師を職員自身が交替で行い自分自身の意識向上や勉強に繋がっている。月2回の法人研修では、誤嚥・窒息・AED使用までの流れを学ぶ応急手当研修と接遇研修がある。風花独自でも感染予防、緊急時の対応や防犯対策なども繰り返し訓練することで、慌てることなく動けるようにしている。	外部研修や法人研修は、職員に情報を提供し、実践者研修やリーダー研修に参加の機会を提供し、受講者は研修報告書と資料を回覧して職員間で共有している。法人研修は、年1回の新任、現任研修会、研究発表会、資格取得のための研修の他、月2回、誤嚥・窒息・AED使用などの応急手当研修と接遇研修を行っている。内部研修は、年間計画をたて、急変時の対応、感染症、身体拘束、認知症、自己評価・外部評価、理念・心得ノート、個別のケアプラン、看取りなどについて職員が講師を交代で務めて実施している。心肺蘇生法とAED使用法の訓練を毎月、実施している。防犯訓練は法人での訓練後事業所でも毎月実施している。新人は法人での5日間の研修の後、事業所で先輩職員が指導している。		
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの見学やグループホームブロック会議に参加している。勉強会や意見交換する機会があり、他グループの取り組んだ資料や参加者の報告を職員間で共有し、地域との関わり方や活動の参考にしている。研修参加の誘いもあり参加することでサービスの振り返りの機会にしている。			
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化に戸惑われないように、入居前には見学の機会を設けている。お茶等を利用者様とお話ししながら飲んで頂くことでゆっくりと関わりの時間を持ち、さりげなく不安や要望を伺っている。早く馴染んで頂けるように、利用者様の素振りや言葉から気持ちの把握に努め担当者が中心となつて馴染みの関係作りをしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設サービスについては法人相談員が丁寧に対応している。入居前には見学の調整をし、生活環境を知って頂いたうえで不安や要望を伺う機会をつくっている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談員・ケアマネ・管理者・担当者が入居前情報から支援を検討している。かかりつけ医や美容室・歯科・皮膚科などの他医院への通院状況をご家族へ伺い、職員への要望の把握に努めている。遠くにお住まいのご家族に代わって通院介助もできるように支援している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日、食事の時間になるとワゴンを押し厨房まで行くことをご自分の役割としておられる利用者様や、「暑くなってからの水やりはだめよ」と目が覚めると直ぐに野菜や花の水やりをして下さる利用者様もおられる。新人職員は教わりながら一緒にしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはケース記録を見て頂き、利用者様の日々の様子をお伝えしている。面会の少ないご家族へはリーダーが電話で様子をお知らせしている。ご家族からの要望や相談があった場合は連絡帳や要望書でご家族の想いを職員皆で共有し対応している。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、親族の方だけでなく入居当時から8年たった今でもお友達が面会に来られたり、ご家族と外出・外食・外泊や法要やお墓参りをされる方もおられる。面会時間を決めていない事から、仕事帰りに立ち寄られ利用者様が横になられるまで一緒に過ごされるご家族もおられる。	家族の面会や親戚の人、友人、教え子の来訪がある他、遠方の家族の宿泊、年賀状や暑中見舞い、お誕生日のメッセージ、手紙、電話などでの交流を支援している。高校野球の応援や釣り、自宅までの散歩など、利用者一人ひとりに合わせて馴染みの支援をしている。家族の協力を得て、行きつけの美容院の利用や親戚の通夜、葬儀、墓参り、外泊等の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、気の合う方と座れるようにテーブル席やソファを配置している。お膳拭きや洗濯たみ等、手分けして一緒にされている。外出の折にも一緒に手をとり合って歩いておられる。コミュニケーションの難しい方には職員が横につき話しかけ、間を取り持っている。		
23		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居から風花での様子を写真に撮りためており、退去時には「思い出アルバム」としてお渡ししている。退去され7年目を迎えられるご家族は、ご自分が所属されているサークルの方を誘って法人のクリスマスコンサートに毎年参加して下さっている。年賀状や暑中見舞いなどで近況をお知らせ下さるご家族もおられる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	高校の校長をされていた利用者様は毎日新聞を読まれている。夏の高校野球県予選大会が始まるのが分かったと、職員と野球の話に笑顔。担当職員が中心となり会議をし、応援に行くことになる。新幹線に乗り下関球場まで足を運びメガホンを片手に応援。勝利の校歌を聞かれ時には感慨深げにグラウンドを見ておられた。「昔は釣りによく行きおってね…」と本人がご家族とお話していた利用者様は久しぶりにさかな釣りへ。美祿市の別府弁天池釣り堀では昔取った杵柄で大物を釣り上げ、風花へ戻られた後も「こんな大きい釣りましてね」と嬉しそうに皆様へお話していました。	入居時に本人や家族、入居前利用施設から得た情報をアセスメントして入居時情報に記入している。日々の関わりの中での利用者の言葉や行動、表情、職員の気づきなどを生活プラン記録に記録し、月2回のユニット会議で検討して利用者の思いや意向の把握に努めている。介護計画更新時に生活歴や職業背景、アセスメント表を基に検討して、希望や意向の把握に努め、高校野球観戦や釣り堀での釣り、家に帰るための歩行訓練などの支援をしている。困難な場合は本人の表情などから推察し、ユニット会議で本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前情報で利用者様の生活歴や環境・既往歴などを知ることができるが、契約時にご家族から直接、生活歴や趣味・嗜好・得意とされること等、今までの生活環境や生活歴を聞ける範囲でお聞きして入居時情報として追記し回覧している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事量・水分量・排便や入浴・睡眠の状況を生活記録表に記入することで一目で身体状況が分かるようにしている。ケース記録には一日の過ごし方や場面での言葉を書き、その中から生活リズムの変化や思い・支援への課題を月2回のユニット会議で検討会議を行い、対応を決めている。随時、口頭での申し送りもしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の会話の中から利用者様の想いを知ることで希望を叶えるために目標をもった介護計画を作り、支援している。面会時やケア会議にご家族の参加を呼びかけ要望を伺っている。三ヶ月毎に見直しをしているが、利用者様の状況の変化に応じて、計画作成者・担当者を中心に、医師・訪問看護師・リハビリ職員にも助言を受け介護計画の変更も行っている。	家族に参加を呼びかけ、計画作成担当者と利用者を担当している職員を中心にケア会議を行い、医師や訪問看護師、理学療法士、薬剤師の意見を参考にして話し合い、本人や家族の思いや意向に沿った介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施して、計画を見直すと共に、利用者の状態や変化に応じてその都度見直して、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録は、会話内容や支援状況などを記入し、日々の様子が分かるようにしている。一月のサービス実施状況が分かるチェック表を新たに作成したことで、ケアの実践結果が分かりやすくなり、介護計画の見直しにつながった。連絡帳は個別になっており、心身状態の変化や処方変更の情報を書くことで、共有できている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護や医師の往診があり、健康管理が出来る。口腔ケアや歯の治療、義歯の調整は協力医療機関の歯科が毎週来られており、サービスを受けている利用者様がおられる。ご家族のご要望で他科受診の付き添いをしている。月一回の移動美容室のサービスがあり、利用者様の希望でシャンプー・カット・毛染め、パーマもされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事のご案内があり、夏祭り・公民館活動・地域文化祭・お寺の花祭り等参加する機会が多くある。普段から民生委員、自治会長、地域の方と連携を深めており、風花での行事や法人のお祭り、家族会に参加下さり、共に楽しむ関係が築けている。30分ボランティアの方々の協力もあることで楽しみごと増えている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2名の方が昔からのかかりつけ医にご家族と受診されており、受診の時には日常の様子やバイタル、食事量など必要な情報を医師にお伝えしている。皮膚科、泌尿器科、整形外科も通院されている利用者様もおられる。ご家族の付き添いが難しい時には職員が付くなどの支援をしている。	協力医療機関をかかりつけ医としている利用者は、月2回の訪問診療と週1回の訪問看護師の来訪や随時の往診がある。従来からのかかりつけ医や他科受診は家族の協力を得て受診支援をし、バイタル情報等を医師に提供している。週1回、歯科医師や歯科衛生士の訪問診療がある。受診結果は健康診断書を家族に毎月送付し、電話や面会時にも連絡している。職員は受診、服薬状況を連絡帳に記載し情報を共有している。緊急時は協力医療機関と連携して、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間医療連携をとっており、オンコール体制がある。週に一度訪問看護があり、様子を伝え指示を受けている。主治医への報告・相談にも間に入ってもらっており、職員に対処方法など分かりやすく指導を受けている。感染予防についての指導もある。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	居室は30日取り置きが出来るようになっている。入院時には看護・介護情報提供書を作成し、利用者様の様子や薬等についての情報を医療機関へ提供している。法人の地域連携室担当看護師と管理者が病院へ出向き情報提供や質問に答えている。医療機関と退院に向けてのカンファレンスもしており、スムーズに退院できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りの指針について説明している。看取りについては早い段階からご家族・医師・看護師等と話し合いの機会をもっている。終末期に入られた利用者様のご家族には、医師からの説明があり話し合いの場を設けている。状態の変化がある度にご家族に随時意思の確認をしながら、最期の時まで尊厳を保ち適切なケアを支援している。ご家族はいつでも宿泊することができ、食事も提供できる。	契約時に本人や家族に「重度化及び看取りに関する指針」に従って、事業所のできる対応について、説明している。実際に重度化した場合は、早い段階で他施設への移設を含めてもう一度説明して、家族や主治医、看護師、職員等で話し合い、状態の変化があるたびに、家族の意思の確認をしながら関係者が方針を決めて共有して、チームで看取りの支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	マニュアルがあり、『事故発生予防及びその再発防止について』年1回風花勉強会を開催している。インシデント・アクシデント発生時は当事者がすぐに記録し、回覧することで事故発生予防に繋げている。毎月風花で誤嚥窒息からの心肺蘇生法・AEDの使用方の訓練をしている。法人でも月1回第3月曜日には応急手当委員による応急手当研修があり、1年に一回は誤嚥発見からAED使用までの流れを、職員は交替で受け、繰り返し学び実践力が身につけている。宇部・山陽小野田消防局実施の普通救命講習Ⅰを9名が受講し急変時の対応が的確にできるようになっている。	事例が生じた場合は、インシデント報告書やアクシデント報告書に当日の勤務者が記録して回覧し、主治医や訪問看護師に報告して、月1回のユニット会議で対応や防止策について再度検討して、介護計画に反映させて一人ひとりの再発防止に努めている。マニュアルがあり、事故発生時や緊急時の対応について年2回内部研修を実施し、月1回誤嚥、窒息からの心肺蘇生法、AED使用法の訓練を実施している。法人の応急手当委員会が月1回、応急手当の研修を実施し、職員は年1回は受講している他、消防署の協力を得て普通救命講習を受講して、実践力を身につけている。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回法人の夜間想定火災訓練があり、その時に合わせて水害・地震を想定した訓練も行っている。災害時の協定書を結んだ自治会の方の参加があり、一緒に避難誘導・消火訓練も行った。動けない利用者様を想定してシート、簡易性担架を使用して避難誘導の訓練もした。	年2回、消防署の協力を得て拠点施設合同で、夜間の火災、水害、地震を想定した、消火、通報、避難誘導訓練や、避難経路の確認を家族や自治会の方の参加を得て実施している。事業所独自に内部研修で利用者も参加して避難訓練を実施している。自治会と災害時の協定書を結び、運営推進会議で防災講座を開催している。運営推進会議のメンバー（自治会長、交番職員、消防団員、家族会）が、事業所の緊急連絡網に加わり、地域との協力体制を構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内の接遇研修に参加し、尊厳を傷つけない言葉遣いや丁寧な挨拶等の指導を受けて学んでいる。随時、管理者やリーダーから言葉遣いなどについてのアドバイスがある。個人情報保護・プライバシー保護マニュアルがあり、風花勉強会で繰り返し勉強している。入居時には風花メール掲載の有無、室名札の掲示などの確認を行い意向を伺っている。入浴やトイレ介助中は職員の立ち位置やバスタオルを使い肌の露出にも気を付けている。訪室時のノックも忘れずしている。	職員は法人の接遇研修や新任、現任研修で人格の尊重とプライバシーの確保について学び、人前でトイレ誘導はしないなど利用者の尊厳を傷つけない言葉づかいや、丁寧なあいさつなどの対応に心がけている。「個人情報の保護・プライバシー保護マニュアル」があり、内部研修で学んで、利用者の個人情報の取り扱いや文書管理について配慮している。気になるところがあれば管理者やリーダーがその都度、指導している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物は「熱いのと冷たいのどちらにしますか」と声をかけ、好みの物を飲んで頂けるようにしている。行事や家事も「一緒にしませんか」と声かけし、選んで頂ける声かけをしている。「風花暦」という取り組みをはじめ、暦の中から参加したいものを自由に決められて参加されている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「散歩中です」と写真入りの名札をつけ、お一人で施設外周を散歩される利用者様もおられ、「いってらっしゃい」と見送り、「おかえりなさい。どうでした」と声をかけお話を伺っている。苑庭の畑で季節の野菜を一緒に育てている。収穫時期になったら利用者様が毎日熟れたか見に行かれ、ザルを手にし、採ってきてくださる。自室で塗り絵や日記をつけたり、テレビを見ながら編み物をされる方もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	誕生日会の時には男性の方は背広にネクタイを締め、女性の方はお化粧をしたりお気に入りの服を着て頂き皆様とお祝いしている。起床時には好みの服を伺いながら更衣の支援をしている。目元・口元などの整容を心掛けている。顔そりや爪切り、髭剃りなども行っている。家族の協力で行きつけの美容院へ行かれる方もおられる。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間が近づくと、台車を指して「行こうか」と自分から職員に声をかけて下さり、厨房へ食事をとりに行かれる利用者様、盛り付け・下膳・お膳拭きなどを自分の役割としてくださる利用者様がおられる。声をかけて下さるタイミングを大切に一緒にしている。食器は毎年陶器市に行き購入しており、料理に合わせた食器を使用している。アレルギーの食材がある方へは代替りの物が用意されたり、お好きな物を風花で作る事もある。	三食のご飯と夕食の味噌汁は事業所で作り、副食は法人の配食を利用している。事業所の畑で収穫した野菜を使って一品添えている。利用者は味見や盛り付け、お膳拭き、下膳、後片付け、食器洗いなどできる事を職員と一緒にしている。月1回のおやつづくり(おはぎ、桜餅、草団子、かき氷、メロンソーダ、畑で採れた梅や紫蘇のジュース、おやき)、季節の行事食(おせち、ひな祭り、そうめん流し、敬老の日、クリスマスケーキなど)、茶会(抹茶の野立て、お菓子)、誕生日のケーキ、弁当持参のピクニック、スイーツの外食、美しい食器にきれいに盛られたお膳、家族の協力を得ての外食など、食事が楽しみなものになるよう支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量をチェックしている。栄養士がたてた献立を提供しており、利用者様の状態によって常食、刻み食、トロミ等にて食べて頂ける工夫をしている。食べられない時には看護師・管理栄養士の指示を受けながら高カロリー食品をお出しすることもあり、バランスのとれた食事となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力医療機関があり、定期的に歯科医師、歯科助手が往診に来て口腔内ケアや必要であれば治療も受けておられる。訪問歯科衛生説明書があり職員は指導を受けている。ご自分でできる利用者様は食後、洗面所に案内している。難しい利用者様はスポンジ歯ブラシやガーゼなどで行っている。夕食後は必ず義歯を預かり洗浄している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様のサインをつかむことで、お一人お一人の排泄パターンを把握し、トイレの声掛け、誘導を行っている。車椅子の利用者様も介助バーを持ち、立とうとてくださるので、二人介助でトイレ誘導を行い、便座に座り排泄が出来ることを大事にしている。	日常生活記録の排泄チェック表を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者に合わせて言葉かけやトイレ誘導をして、トイレでの排泄や便座に座っての排泄ができるよう支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時には牛乳を出している。食事やおやつの時以外にもお茶などの飲み物をお勧めし、十分に水分が取れるようにしている。テレビ体操やリハビリスタッフが行う健康体操に参加、苑内外の散歩などで適度な運動をいれることで便秘予防に努めている。毎日排便チェックを行い、排便がない時には医師の指示のもと内服でコントロールしている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	夕食後ゆっくりしたい時には午後から、寝る前に入りたい時には夕食後に入浴、その日によって希望の時間に入られている。ゆず湯やしょうぶ湯などで季節を感じて頂いている。入浴が出来ない時には、清拭・足浴・手浴を実施している。	入浴は毎日、14時から20時までの間可能で、利用者の希望に合わせて、週に3、4回、ゆっくり入浴できるように支援している。入浴したくない人には無理強いせず、職員を交代したり言葉かけを工夫している。季節の菖蒲湯や柚子湯、入浴剤の利用などで変化を楽しみ、好みの湯温で職員との会話を楽めるように支援している。利用者の状態に合わせて法人の機械浴を利用したり、シャワー浴や清拭、足浴などを行い、個々に応じた入浴支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調などに応じて、居室で横になって頂くことがある。日中、外の景色が見えるお気に入りの場所にソファを移動し、音楽を聴きながらうとうとされる方もおられる。就寝時には照明を小さくしたり、少し明るめの頭灯にしたりと利用者様が安心できる明るさに配慮している。目が覚めた時にいつでもテレビを見たいと希望される利用者様には、テレビをつけたまま休んで頂いている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬マニュアルに沿って服薬支援。誤薬がないように徹底している。薬情報は個人ケースファイルに綴っており、いつでも閲覧できる。薬が変わった時には、どのように変わったのか・気をつけなければならないことはあるのか等を薬剤師に教えてもらい、聞いた者が責任を持って連絡帳に記入することで職員全員が把握できるようにしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	12月の家族会では一か月前から毎日ハンドベルを練習し、ご家族の前で披露された。法人のクリスマスコンサートは10組近くのボランティアの方々が来られ、歌や踊りを楽しませている。座ってできる家事を自分の役割として積極的にされている。風花メールでは今月の主役と題して一人ひとりにスポットを当て、お花が好きな方は季節のお花を見に外出されたり、野球観戦や魚釣り、エステ等楽しみごとを支援している。	カルタ大会、節分の豆まき、家族との納涼祭、母の日、父の日、敬老会、誕生会、ボランティアと歌や踊りを楽しむクリスマスコンサート、すいか割、住職の法話の会、エステ、週1回の理学療法士のリハビリ体操、毎日日替わりの職員によるエクササイズ、ラジオ体操、足上げ体操、歩行訓練、バランスゲーム、風船バレー、ゴルフ、ボードゲーム、編み物、習字、脳トレ(計算ドリル、漢字ドリル)、将棋、囲碁、折紙、歌を歌う、テレビやDVDの視聴、洗濯物干し、洗濯物たたみ、食事の準備や片付け、しそジュースや梅シロップづくり、おやつづくり、野菜や花づくり(水やり、野菜の収穫)、シーツ交換、モップかけ、メダカの餌やりなど、利用者一人ひとりの活躍できる場面づくりや楽しみごと、気分転換の支援をし、事業所だよりで利用者一人ひとりにスポットを当てた写真とコメントでの紹介をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族とご自宅まで往復3km歩いて帰られる利用者様もおられる。ご家族といつまでもご自宅まで歩いて帰れるようにと、職員も散歩コースと一緒に歩くようにしている。お話ししながら苑の周りを散歩される利用者様もおられる。散歩途中で出会った地域の方とも馴染みなり、気軽に声をかけて下さっている。	地域行事(ほたる祭り、厚陽ふれあい夏祭り、御大師様参り、お雛様巡り、どんど焼き、花火大会など)、花見(桜、紫陽花、バラ、ひまわり、コスモス、紅葉)、紫苑祭り、いちご狩り、敬老会、コンサート、初詣、花祭り、秋祭り、買物、高校野球観戦、釣り堀での魚釣り、事業所周辺や庭の散歩、家族の協力を得ての買物や馴染みの美容院利用、一時帰宅、外出、外泊、墓参り、葬儀への出席など、利用者の希望に添って日常的に戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額、ご自分で持っておられる利用者様が おられ、外食や買い物をするときには、職員が横について会計をして頂いている。ほとんどの方がお小遣いとしてお預かりし管理をしているが、買い物の要望があった時には一緒に買い物に行き、お支払いをしてもらっている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	子供様やお孫様からのお手紙やはがきがたくさん届き、利用者様がお返事を書かれたり、職員が代筆する事もある。たくさん届いたはがきはファイルして、リビングのソファ等で繰り返し読み返されている。ご家族からかかってきた電話を取り次ぎお話しをされる利用者様もおられる。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	間接照明で温かみのある空間を大切にしている。ご家族やボランティアの方が季節折々のお花や小物を飾ってくださり、利用者様が楽しみにしておられる。廊下やリビングには置物や絵画が飾られており、文化的な雰囲気の中で生活をしておられる。リビングや洗面所には苑庭で咲く花や、職員と一緒に作った苔玉を飾り、季節や自然を感じて頂けるようにしている。	玄関の飾り棚には家族やボランティア、職員の手で生花や手芸作品が飾っており、テーブルと椅子が来訪者と談話する場となっている。絵画が落ち着きを与える廊下にはソファを設置し、利用者がくつろげる居場所を設けている。リビングは明るく開放的で、テレビや大小のソファがあり、手入れの行き届いた畑や庭の花木を見渡せる。調度品に配慮し、職員と利用者がつくった苔玉を飾った室内は、温度や湿度、換気に配慮して居心地よく過ごせるように工夫している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには一人がけ、三人がけのソファや大小のテーブルを配置している。思いおもいにお一人でくつろがれたり、仲の良い利用者様同士でテレビを見たり外を眺めながら談笑されている。庭の様子や畑の野菜の生育を見ることができるよう、窓際に置いてある一人掛けの椅子に毎日座られ、外を眺めて過ごされる利用者様もおられる。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご自宅で使われていた馴染みのある家具や寝具などを持ってきて頂いている。家具の配置はご本人やご家族と相談しながら行ったり、壁にはご家族との思い出の写真や絵を飾られている。お孫様などの写真や遠くに住んでおられるご家族からの贈り物なども、いつも見える位置に飾ったりしている。	ベッドやテーブル、椅子、テレビ、ソファ、鏡台、整理ダンス、洋服かけスタンド、衣類、化粧品等使い慣れたものや好みのものを持ち込み、表彰状と褒章や家族の写真、人形、ぬいぐるみなどを飾り、利用者にとって居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーなので段差はない。花ユニットには本がお好きな利用者様がおられ毎日、風ユニットにある本棚までお好きな時に車椅子を自操され借りにいかれたり返しに行かれています。風ユニットの花が好きな利用者様は車椅子で玄関から外に出られ、プランターで花を育てておられる。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム風花

作成日: 平成 30 年 12 月 7 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2ヶ月に一回運営推進会議を開催しているが、参加した職員以外は、会議の内容について分からない事がある。</li> <li>・ご家族は玄関設置のファイルにて閲覧できるようにしているが、見られるご家族が少なく、会議録の郵送は会議参加のご家族へしか行っていなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議の内容を全職員が理解し、サービス向上へ繋げていく。</li> <li>・ご家族へ会議録を開示し、会議録を郵送することでグループホームの状況や、地域の方々との意見交換内容を確認して頂き、運営の理解に繋げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議終了後は、会議録を回覧へ綴じ、職員は会議内容を把握することで、運営推進会議を行う事の意義を理解し地域・ご家族の意見内容を把握する。</li> <li>・運営推進会議での報告・意見交換内容の会議録をご家族へ請求書発送時に一緒に郵送し、会議録を開示することで運営の理解に繋げる。</li> </ul>	12ヶ月
2	35	<ul style="list-style-type: none"> <li>・風花で毎月全職員が急変時や事故発生時に備えて訓練を行うように計画し、法人でも月一回の応急手当研修が行われているが、シフトの兼ね合いで訓練が出来ていない職員もおり、法人の研修への参加ができていない月もある為、実践力に不安がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必ず月一回、風花で訓練を行うことで、実践力を身につける。</li> <li>・毎月法人の応急手当研修に職員が交代で参加できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月シフトの調整を行い、研修参加者が被らないようにチェックしておき、法人の応急手当研修に参加し初期対応を身につける。</li> <li>・風花で毎月全職員が急変時や事故発生時に備えて訓練を繰り返し、各リーダーの監修の元、マニュアル通りに出来るまで行うことで、経験の浅い職員も自信を持って対応できるよう指導する。</li> </ul>	12ヶ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。